（別添様式４）

令和４年度　学校評価実施報告書

学校名（　小栗栖中　学校）

教育目標
『自ら課題を見つけ、他者と協働しながら、探究しつづける生徒の育成』

年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・学校教育目標が教職員、生徒に浸透してきているように感じる。 ・来年度は２小学校とも連携し、令和７年度に向けた歩みを進める予定である。 ・まだまだ「自ら課題を見つける」までには到達できていないことが多く、探究まで行きつけていない。 ・来年度「生徒が授業を変える」姿を実現させたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・教育目標に関しては十分にご理解をいただき、実現するように応援をいただいているとともに、令和７年度に向けて大いに期待を寄せられている。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和３年１０月１８日	学校運営協議会理事他
最終評価	令和４年　３月１０日	学校運営協議会理事他

（１）「確かな学力」の育成に向けて　『学力向上プラン』

重点目標
○「授業で生徒が変わる」
具体的な取組 ・「学力向上チーム」を核とした、分析・考察・提言機関としての機能を高め授業改善等学びの質の向上を図る ・「教科会」を軸に、各教科における家庭学習の習慣化や定着などの重点指導目標の共有や達成に向けた取組を確実にする ・小栗栖ならではのカリキュラム・マネジメントの視点で探究的な学習を設定し、道徳・共創（総合的な学習の時間）と関連付ける ・定着してきた「自学室」、ＧＩＧＡスクール構想の拠点としての「多目的室Ａ・Ｂ」などを活用し、生徒の学びの場の学習環境を整備する ・学校図書館の整理と充実させることにより、学習活動に活かす取組を促進する ・「考える道徳」の定着に向けて実践し、道徳的判断力を醸成する。学年道徳、全校道徳などを積極的に取り入れる。

・小学校と連携し、７年間を通した「総合的な学習の時間の全体計画」の作成
（取組結果を検証する）各種指標 ・ＩＣＴを活用した授業を取り入れ、実践できているか ・教科会等で授業の改善の話し合い活動ができているか ・平日や週末の学習課題は取組めているか ・学校図書館を活用できているか。また、図書館を活用した授業が行えているか ・自学室や多目的室などを活用し、自主学習の環境整備ができているか ・道徳を通じて生徒を生かす場をつくろうとしているか

中間評価

各種指標結果 ・「学校生活が楽しいと感じている（いそいそと学校に通っている）」というアンケートの重要度は、「とてもそう思う」「そう思う」の合計で 90%を超えて当然のことながら期待値は高く、達成度は同項目で「とてもそう思う」「そう思う」の合計が ７５%の数値を残しているがさらに向上を目指したい。 ・学校図書館の活用率が順調に向上している。授業での利用がまだ少ないが、レイアウトなど改革が成功している。蔵書の内容の精選も進んできた。 ・全国学力・学習状況調査の生徒質問用紙の中から抜粋して１・２年生にもアンケートを実施した。経年を比較しつつ、結果を分析し活用したい。	
自己評価	分析（成果と課題） ・学習確認プログラムに対する意識は向上し、予習シートを持ちながら登校する生徒が見られるなど意欲の向上につながっている。 ・３年目となり、小栗栖中学校の生徒に「いそいそ」という言葉が定着した。今年度も全校集会的はリモートとなり直接反応は見られないが、生徒たちの中に浸透してきていることが、生徒たちの会話からも伺える。 ・生徒に取った学校評価アンケートで、「小栗栖中学校は、基礎学力をつけるために学習に力を入れている」に対する回答で重要度「とてもそう思う・そう思う」の合計の８５%は昨年度と変わりないが、達成度は昨年度に比べ上昇していることから少しずつではあるが浸透してきている。。 ・独自のアンケートの「家で自分が計画を立てて勉強をする」の項目では、「している」が全校で １５%しかなく、一方、「あまりしていない・全くしていない」の回答に注目すると、合わせて５５%～６５%の割合で各学年に存在し、なかなか定着しないのが現状である。 ・宿題については、質・量・取組方法などについて、家庭学習を通して「どのように学ぶか」と視点で捉え、児童・生徒の学習習慣の確実な定着につながるよう、検証が必要である。
	分析を踏まえた取組の改善 ・学校で学んだことを学校で完結させるのではなく、学んだことを基に実社会で自ら課題を発見し、追究して解決する資質・能力、学び続けようとする態度を身につけさせることを意識した授業展開を教員がまず意識し、実践できるようにさらに研修を重ねる。 ・各授業で実施している授業のめあて・振り返りをさらに定着させる。 ・自学室を活用し、自学の習慣を定着させたい。 ・各授業で「問いを作ること」を児童生徒が意識する授業の展開を意識する。

	・主体的な学びにつながる自学自習の習慣の定着を図る取組が早急に必要である。 ・保護者にも定期的に伝えることで家庭との連携・協力をより一層強化する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・学校教育目標、めざす子ども像から見える授業や取組の達成度「授業で生徒が変わる」 ・自分の意見や思いを正しく伝えるために、筋道を整え、考えをまとめる力の必要性 ・学習確認プログラムの結果 ・家庭学習・宿題の内容・読書の在り方の検証結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・自分の意見や思いを相手にしっかり伝える力の育成をしてほしい。 ・学校評価アンケートの達成度の回答について「わからない」という回答がまだあるのは広報が足りないのではないか。 ・学校運営協議会の活動の充実と学校の取組への側面的な支援

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・「授業で生徒が変わる」ことを目標にすることで、３年生の国語で学習確認プログラムの結果が、上昇及び安定したことは明らかに「生徒が変わった」ところに要因がある。指数が１００を超えることが定着し、教員が夏季研修会などでレクチャーするなど教職員にとっても大きな刺激となり、他教科でも少しずつ成果が表れてきた。 ・昨年度に比べると３年生が少しガタガタする場面はあったが、授業への集中度は維持できていった。その結果の１つとして公立前期選抜の合格者が４０％に到達するという成果を見ることができた。 ・自主学習と同時に、宿題、自主学習等の家庭学習の取り組みについて、保護者との連携・協力が必要である。
	分析を踏まえた取組の改善 ・「授業で生徒を変わった」ことは事実であり、教員自身が自信を持ち、変わらせようとする姿勢を持ち続けていき、「変わった生徒をさらにどのように育てるか」という視点で取り組み、さらに次のステップに飛躍したい。 ・自学ルームの活用（個人ブース）、多目的室の整備など、生徒が学習するにあたり、環境を整えてきたことは少しずつ効果を表しているので引き続き小栗栖を変えることに積極的に取り組んでいきたい。 ・生徒の意識改革はもちろん、教員側の意識改革を引き続き促す。 ・宿題が出しっぱなしにならないように、評価を保護者にも定期的に伝えることで家庭との連携・協力を図る。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・少しずつ地域との交流が戻りつつあるが、生徒が活動している場面などを観ることがまだまだ少ないので、地域も積極的に足を運ぶことに心掛けたい。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 〇「自ら律する力」の向上を目指した教育活動の実践 〇自他を大切にし、公共の精神に基づく態度を育む
具体的な取組 ・学年実態に応じたコミュニケーション活動を通して、他者にやさしくかかわれる態度を育む ・人権に関わる学習を月例化し、「人権道徳」や「人権学活」として行う ・学校のきまりや法令遵守の態度を育成・定着していく指導を行う ・生徒の自主性や意欲を高めていける生徒会活動をしっかりと支える ・小中の教職員が子どもの『育ち』の姿を共有するための礎として、小中連携の行事に取り組む ・「考える道徳」の定着に向けて実践し、道徳的判断力を醸成する ・道徳の評価について研究・実践し、年に２回程度の保護者への評価提示を行う ・地生連や地域の活動への積極的な参加をすすめ、地域を大切にできる学校の創造をめざす
（取組結果を検証する）各種指標 ・道徳授業は年間計画のもと、系統立てて取り組めているか ・学校や社会のルールは守れているか（守らせているか） ・学校や社会のルールを理解させ、守らせる指導ができているか ・ＳＮＳのルールやマナーを守れているか（話をしているか） ・ＳＮＳの危険性やマナーについて指導できているか

中間評価

各種指標結果 ・学級での道徳だけではなく、学年道徳を実施すること、外部の人材を活用すること、学年体制で指導内容検討をすることで道徳の授業を工夫し、保護者参観を呼び掛けて、保護者からの意見を求める。 ・指導と評価の一体化の視点から、道徳の評価が授業の改善につなげられるよう、学年・学校体制で取り組んでいる。 ・生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践が実施しにくい中、工夫しながら、自己有用感の涵養につながるように工夫している。	
自己評価	分析（成果と課題） ・道徳教育推進教師と道徳主任が連携し、指導内容や時数確認、企画を分担することでそれぞれの役割を果たしている。 ・合唱コンクールを学年毎で復活し、体育の部も保護者参観を認めて全校で実施したが、縦割り集団での取組ができず、交流が持てていない。
	分析を踏まえた取組の改善 ・３年間を見通した道徳の授業の在り方、評価の在り方の研究・共通理解に取り組む。 ・異年齢学年での交流や複数の学年での交流による行事を精選し取組を進める。 ・地域との関連性（保育園・幼稚園との交流・お年寄りとの交流等）を少しずつ再開する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・年間指導計画と各学年の実施状況の点検と指導内容の検討・改善。 ・縦割り集団活動を通した取組の推進、生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践を

	し、自他を大切にする態度を育成する。 ・クラスマネジメントシート。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ホームページ、学級通信等を通しての道徳の授業の内容を家庭内での話題作りにできるようになってきた。 ・地域行事を少しずつ再開している。参加を促すことで、人と人とのつながりを実感してほしい。 ・挨拶をすることの大切さ・意義を子どもたちに伝えてほしい。 ・地生連・少年補導委員会の諸行事の実施で仲間意識を持たせる。 ・登校時の見守り活動を通した支援。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・道徳教育推進教師と道徳主任を核に学年体制で指導内容検討し、今年度から他校の取組に足を運ぶことで参考とし、道徳の授業を工夫した。 ・指導と評価の一体化の視点から、道徳の評価が授業の改善につなげられるよう、学年・学校体制で取り組んでいる。 ・生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践が少しずつ復活してきたので、今後新たなカリキュラムを設定していくこととした。 ・アンケートでは「道徳観が身についた」という項目で８４％が肯定的な回答をしている。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・道徳教育推進教師と道徳主任が連携し、指導内容や時数確認、企画を分担することを続ける。 ・学校祭は復活したが、体育大会・文化祭などはまだまだ分散の形をとっている。縦割り集団での取組を再度検討する必要がある。 ・総合的な学習の時間で１年生が小学生を招き小栗栖縁日を開催できたことは大きな一歩となった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・道徳の授業の評価について、指導と評価の一体化を踏まえた、より一層の共通理解が必要。 ・道徳の評価の研究・共通理解をさらに推し進めたい。 ・小学校と連携し義務教育、９年間での「豊かな心」の育成に向けて、現存の行事・取組等（学年での交流や複数の学年での交流による）を精選し取組を進める。縦割り活動のより一層の充実を図っていきたい。 ・地域との関連性（保育園・幼稚園・小学生・お年寄りとの交流等）を取り入れる。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小学生との交流が復活したのは嬉しい。 ・保育園、幼稚園は大変協力的に交流を望んでいただいているので、新たな展開を試みたい。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 〇働き方改革を実践し、より働きやすい、働きたくなる職場にする 〇健康な生活習慣を基盤として、「安心・安全」な学校生活の意識を向上させる

具体的な取組 ・感染症対策を徹底して行う ・保健教育・食に関する指導・安全教育・防災教育などを関連づけ、調和のとれた「自己管理能力」をもった生徒の育成を目指す ・「健康第一」のための職場環境の充実をはかり、心身ともに健康な生徒の育成を目指す ・部活動ガイドラインに基づき、「ノー部活デー・土日のいずれかの休養日」の設定を遵守し、心身ともに健康な生徒の育成を目指す ・健康を保持増進していく態度を育てていくための取組を積極的に行う ・組織的・計画的な安全管理体制を整え、「子どもの命を守りきることができる教職員体制の確立」を目指す ・非行防止教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を実施し、生徒の意識の定着を図る ・生活習慣を自ら見直し、築いていく力を育てる取組を実践する
（取組結果を検証する）各種指標 ・規則正しい生活ができているか ・生活習慣確立に向けた指導をしているか（パーフェクトウィークの取組の結果） ・健康や安全に関して、自ら考えていくよう指導できているか

中間評価

各種指標結果 ・独自で行ったアンケート調査の「朝食を毎日食べていますか」という項目について、「毎日食べている」が７０％「ほとんど食べている」が１５％で、安心している。しかし「全く食べていない」も６％いるのも現状であり、改善を図りたい。 ・遅刻が減らないことが全校的な課題である。（生活習慣の確立を家庭でも学校でも） ・部活ガイドラインに基づき部活動停止日の設定、各部毎に休養日の設定している。大会が行えるようになりモチベーションは上がってきた。 ・生徒の体力と学校行事とを関連させ、行事予定表の作成を心がけた。	
自己評価	分析（成果と課題） ・生徒会が薬物乱用防止について啓発の発表をするなどの、生徒および保護者への啓発活動ができていない。 ・生徒が自分の健康管理に向き合えるようにもっていくためにも、生徒会が中心となり、朝食の摂食、起床就寝、自己管理等の基本的生活習慣の点検について継続的に取り組んでいく必要である。（パーフェクト・ウィークの取組） ・ガイドラインを遵守し、部活動の運営に努めることができている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・薬物乱用教室、非行防止教室を、発達段階をふまえて系統立てて実施する。 ・食教育に対する意識を教職員ともども向上させ、と関連付けた健康教育を進め、自己管理能力を育む基本的生活習慣の確立に向けた取組を推進する。 ・部活動ガイドラインの趣旨を踏まえて、生徒に充実した活動をさせるために、科学的で計画的な指導方法の工夫をする。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・薬物乱用教室・非行防止教室を単発的に終わらせるのではなく継続的に取り組む。

	・朝食の摂食、起床就寝、自己管理等、基本的生活習慣の点検 ・部活動ガイドラインに基づき、クラブ活動・部活動実施状況の点検および生徒の活動状況の把握。 ・パーフェクト・ウィークの取組結果の検証
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・薬物乱用防止教室などの取組を学校がしっかりとして続けてほしい。 ・教育活動の中で、生涯スポーツに親しむ機会を増やすべきである。 ・学校運営協議会としても関連諸行事に積極的に協力する。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・薬物乱用防止の取組、命を考える取組を子どもたちが主体的に実践を進めている。 ・生徒の体力と学校行事とを関連させ、行事予定表の作成を心がけた。 ・食教育と関連付けた健康教育を進め、自己管理能力を育む基本的生活習慣の確立に向けた取組を推進するために、掲示物の工夫を行い定着してきた。 ・部活ガイドラインに基づき部活動停止日の設定、各部に休養日を徹底している。 ・学校評価アンケートでは困ったときに小栗栖中学校の教職員は相談しやすいかという質問に対し、生徒・保護者共に８０％が肯定的に捉えてくれているが、さらに高い評価を受けることができるよう努力したい。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・コロナの影響は、手洗い・消毒・マスクの習慣が徹底され、マスク着用が自己判断になったが大半の生徒が付けたままでいる。 ・朝食の摂食率は引き続き高い値（８５％程度）を取っているが、起床・就寝、自己管理等の基本的生活習慣は身についていないのが現状である。 ・部活動ガイドラインを遵守し、部活動の運営に努めることができた。 ・毎日の体調チェックに加え、長期休業明けに「生活調べ」を継続的院実施している。生活リズムの見直しを保護者と一緒に見直すことができたことは、児童の自己管理能力の育成につながっている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・身についた手洗い・消毒の励行は今後も継続し、マスクの着用は自己判断に任せつつ、推奨していく。 ・健康教育の中で、特に食教育の推進がさらに必要である。 ・自己管理能力を育む基本的生活習慣の確立に向けて、小学校と連携し９年間の系統性も持った継続した取組が必要。（統合に向けての先取りとして実施） ・部活動ガイドラインの趣旨を踏まえて、生徒に充実した活動をさせるために、科学的で計画的な指導方法の工夫をする。 ・働き方改革の視点も踏まえ、来年度の完全下校時間を年間通して１７時とする。 ・薬物乱用教室、非行防止教室等の実施により、徹底した指導を系統立てた取組とする。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・生徒の生活アンケート集計を共有する中で、朝食の摂取率については話題に上がり、１００％を目指せるように全保護者が協力すべきだという意見をもらった。 ・部活指導については今後地域移行についても一緒に検討していく必要がある。

（４）学校独自の取組

重点目標 ○「学び続けること」を学ぶ児童・生徒の育成
具体的な取組 ・小学校の一次統合を機に小中合同で取り組む実践の拡大 ・学習規律の徹底を図り、学習に対する積極的な態度の育成（１年） ・コミュニケーション活動を取り入れた授業の積極的な展開 ・ＴＴ授業の積極的な展開 ・自学室を活用した自学自習へ向けた環境整備 ・未来スタディ、長期休業における補充学習会・自主学習会の実施 ・道徳的判断力、道徳的実践力の向上を目指し、教科書を積極的に活用した道徳授業 ・育成学級生徒や外国にルーツのある生徒について、正しい知識と認識が持てることを目指した学習の実践 ・社会の一員であることの自覚を高めていくためのキャリア教育活動の実践 ・小中一貫を意識した交流活動の継続的な実践 ・小栗栖中学校の教員が校下２小学校の授業行う。 ◎６年生の算数の授業に週２回Ｔ２として参加する（通年） ◎５年生・６年生の音楽の授業を全て行う（通年）
（取組結果を検証する）各種指標 ・小中合同研修会の開催 ・９年間を見据えた指導指針の創造に向け、教科連携 ・小中相互の授業参観の実施 ・家庭学習課題についての現状確認及び今後に向けての協議を行う ・生徒会と児童会との交流会の実施

中間評価

各種指標結果 ・総合的な学習の時間を「共創」と呼ぶこととし、意識の改善が少しずつ表れてきた。 ・令和７年度新校開校については、保護者・地域の回答が重要度で「とてもそう思う」３９％「そう思う」４４％で合わせても８３％、さらに達成度「とてもできている」２７％「できている」５５％と昨年度に比べてずいぶん上昇している。	
自己評	分析（成果と課題） ・小栗栖中学校の教員が校下２小学校の授業行っていることは評判がよく成果も上がっている。 ・小中合同の研修が、夏休みに３校合同で集合研修が行えたことは大きな成果である。みんなが

価	一つの目標に向かい、その意義を共有するきっかけとなった。 ・学校祭文化の部で学年毎に取り組んだ制作が、階段や廊下に展示できている。 ・一次統合が行われ、２年後の本統合に向けた予算の活用方法、共有できる備品の計画的購入など、連携を取ることを継続していく。
	分析を踏まえた取組の改善 ・総合的な学習の時間（共創）を活性化し、地域との交流、学年間交流を活性化させる。 ・中学３年の修学旅行の内容を小学校６年生と関連付けて再構築。（２小学校との連携）
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・学校評価アンケート ・様々な繋ぎ（結び）の実践の振り返り。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・保護者・地域を巻き込んだ良い取組を行ってほしい。 ・合唱コンクール・体育の部の保護者参観可はありがたかった。 ・ホームページや学校だよりは学校全体の様子が伝わってくる。更新、発行を楽しみにしている。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 ・独自で実施した生活アンケートで、経年変化を追いつつ比較してみると、コロナ意向肯定の割合が多くの項目で減少している。 ・学校独自のアンケートで「友達と協力するのは楽しい」という項目で、９０％を超える生徒が肯定的に捉えている。ここ数年コロナの関係でできなかった協働的な作業（文化祭など）ができるようになり、二学期になってさらに伸びた。今後とも感染対策を講じながらも積極的に取り組ませたい。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・保護者へのアンケート結果が「わからない」という回答が年々減少し、学校だよりやホームページでの発信が少しずつ功を奏し、定着してきている様子がうかがえる。 ・「小栗栖縁日」と題して中学１年生が２校の小学生におもてなしを行った。大変好評であり、同じスタイルに限らず、小学生との交流は続けていき、ピアサポートの意識を高めたい。 ・小学校と連携し小学校３年生から系統立てた７年間の総合的な学習の時間を組み立てるための会議を行い、来年度は小中統一した全体計画を提出する方向で調整している。 ・地域教材やゲストティーチャーの活用の充実が必要。
	分析を踏まえた取組の改善 ・学校だより、ホームページの更なる充実と発信の強化。 ・小学校３年から７年間の総合的な学習の時間の全体計画の策定と、小学校１・２年の生活科との関連も意識した、令和７年度の統合に向けた意識改革の先行実施。 ・小学生との共創を意識する。（小学生を中学校に、中学生を小学校に出向かせる） ・小学校の修学旅行と中学校の修学旅行の関連を系統立てて方面を精選。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学校だよりを地域に配布することで毎回コメントをいただけるようになった。継続していきたい。 ・ホームページへの関心が徐々に高くなり、学校運営協議会や地生連の集まりでも声を掛けていただいている。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標 〇教職員一人一人が働き方改革を実践し、より働きやすい働きたくなる職場にする
具体的な取組 ・会議を精選、効率化する。 ・電話応対時間を午後６時 30 分までとし、以降は留守番電話に切り替える。 ・研修などを通じて、働き方改革に関する意識の向上を行う。
（取組結果を検証する）各種指標 ・教職員の勤務時間 ・年休取得率 ・自主研修の回数

中間評価

各種指標結果 ・時間外勤務時間の減少に向けての各教職員の意識は変わり、定着し実践できている。 ・長期休業期間を中心に、年休取得を積極的に取得している教職員が増加している。	
自己評価	分析（成果と課題） ・閉校時間（19:30　水曜日は 19 時）を示すことで、各教職員が勤務時間を意識した仕事の進め方をし、退勤するようになっている。 ・留守番電話（対応時間の限定）は保護者に定着している。 ・長期休業期間を中心に、年休取得を取りやすい職場にする。 ・育児休務を取得する男性教員が大変増えてきた。
	分析を踏まえた取組の改善 ・勤務時間を意識した働き方をするという意識改革は進んでいるが、学年や学校体制の中で仕事を分担する必要がある。 ・定期考査の午後に年休取得ができるよう、午後に行事を入れないようにし、年休取得を促進する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・教職員の勤務時間（超過勤務の量） ・年休取得率（男性教員の育児休業・育児休務を含む）
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・教職員の働き方改革の推進については、肯定的である。 ・教職員の働き方改革の推進の側面的な支援。 ・夜の会議の減少

最終評価

（(中間評価時に設定した）各種指標結果 ・個人の意識が高くなったことと、当たり前になりつつあることから、さらに個々の時間外勤務は大きく減少している。 ・長期休業期を中心に年休の取得している。平日での年休取得率も昨年度に比べて増加した。

・ガイドラインの徹底と遵守により、超過勤務は大きく減少している。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・学校体制での働き方改革の推進、教職員個々の意識改革により、時間外勤務は減少した。 ・「子どもと向き合う時間を十分に確保する」ことが十分にできているかは疑問が残り、今後の改善が必要である。 ・定期考査の午後に年休取得促進のために午後に行事を入れないことは継続した。 ・校務支援員の登用はかなりの効果がありうまく活用できている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・今後も学校教育活動全般の見直しの中で、特に校時表と完全下校時刻の見直しに着手し来年度から試行する。 ・改めて、定期考査の午後に年休取得促進を行う。 ・校務支援員の適切な活用の推進。（依頼内容の精選）
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・電話対応時間の短縮、水曜日の１９時閉門には随分ご理解いただき、逆にもっと推進することもあっても良いのではないかという協力的な声もいただいている。（１８時半への前倒しも検討） ・コロナが一定落ちつきはしてきたが、夜の会議については引き続き減らしていただいている。

（６）いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標 いじめの未然防止のため、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりを徹底する
具体的な取組 「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
（取組結果を検証する）各種指標 ① 全教職員が学校いじめ防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ② 学校のいじめ対策委員会メンバーを児童生徒に紹介している。 ③ いじめに係る既存の「学校評価：児童生徒アンケート項目」を活用し、経年変化を比較し教職員が共有し、適切な対応を迅速に行う。 ④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果を含む）や相談内容を共有している。 ⑤ 保護者や学校運営協議会に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明。周知している。

中間評価

各種指標結果 ・いじめに関するアンケートの活用により、教員側でキャッチし適切な対応ができた。 ・アンケートに書くことに抵抗を持たなくなり、正直に書く傾向が見られ、効果が表れている。 ・生徒、保護者、地域、教職員が同じ視点でいじめに対する意識を持つことができるようななってきている。 ・指標③については、学校評価アンケートで「小栗栖中学校は生命を大切にする心を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる」の項目で８９％の保護者が重要性を感じ、その

	うち７４％が達成度として「とてもそう思う。」「そう思う。」を選択している。 ・指標④については、学校評価アンケートで「保護者が生徒のことで困ったとき、先生は相談しやすい雰囲気である」という項目で９２％の保護者が重要性を感じているが、達成度は「とてもそう思う。」「そう思う。」が７８％であることはまだまだ改善していく必要がある。
自己評価	分析（成果と課題） ・補導部会に加え、いじめ対策委員会を定期的に開催し、クラス、学年にとどまらず風通しがいい環境を作れていることが、防止につながっている。 ・保護者からの声を敏感にキャッチし、連携を取ることができている。 ・教育相談の場面を多く設定し、生徒がいじめに関すること以外でも気楽に話せる状況を絶えず確立し、万が一に備えていることが生徒にも浸透してきた。 ・２小学校との連携の中で、兄弟関係、家庭環境を共有し、今後の統合に向けた地盤を固めている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・教育相談という形にとらわれず、いつでも気楽に、話せる・相談できる信頼関係のさらなる構築を目指す。 ・小学校からの情報は絶えず教職員の中で共有し、守秘義務の元、対応していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・いじめに関するアンケート ・クラスマネジメントシート ・教育相談のまとめ
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小中連携して、児童生徒の様子を見てほしい。 ・いじめの無い小栗栖中学校であってほしい ・学校運営協議会として「いじめ防止」に向けて積極的に協力する。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・いじめに関するアンケートの結果については丁寧かつ迅速に対応することができた。 ・アンケートについては、正直に書く傾向が見られ、指導への活用に効果的である。 ・生徒、保護者、地域、教職員が同じ視点でいじめに対する意識を持つこと大切にしている。 ・学校評価アンケートで「小栗栖中学校は生命を大切にする心を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる」の項目で９３％の保護者・生徒が重要性を感じているものの、７３％しか　達成度として「とてもそう思う。」「そう思う。」を選択していないのは大きな課題である。 ・学校評価アンケートで「保護者が生徒のことで困ったとき、先生は相談しやすい雰囲気である」という項目で９３％の保護者が重要性を感じているが、達成度は「とてもそう思う。」「そう思う。」がまだ７９％にしか伸びていないことは反省し改善に努めていきたい。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・補導部会に加え、いじめ対策委員会を定期的に開催し、クラス、学年を超えて共通理解ができた。 ・保護者との関連を良好にすることで連携を取ることができている。 ・教育相談については確実に設定し、少しの時間でも直接会話することに心掛けている。生徒に

	も浸透していると同時に、期間以外でも話ができる雰囲気づくりに心掛けている。 ・２小学校との連携の中で、兄弟関係、家庭環境を共有し、今後の統合に向けた地盤を固めている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・来年度も年間計画で教育相談を確保している。 ・補導部会・いじめ対策委員会の定期的な開催と連携の強化 ・保護者との連携を密にする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・地生連でも必ず話題に上がってくる。見逃しの無いように取り組んでほしいとの要望を毎回受けていると同時に、地域からも教職員は頑張ってくれているとお声掛けいただいた。 ・学校評価アンケートの達成度において生徒７３％、地域保護者５９％と「いじめや暴力を許さない学校づくり」という点での評価をさらに高めていく必要がある。